

記入例

調査報告書 1 (S)

■鉄骨造の建築物

外観調査

現地調査の結果により、調査結果欄にチェック、記載をしてください。

調査項目		調査結果
建築物の傾斜		<input checked="" type="checkbox"/> 有 → (所見:1/300程度であり、構造耐力上の影響はないと考える。) <input type="checkbox"/> 無
不同沈下 ※目視により不同沈下なしと判断した場合、レベル測定が必要なし		<input type="checkbox"/> 有 (相対沈下量: 1/ 程度) → (所見: <input checked="" type="checkbox"/> 無 傾斜や不同沈下がある場合は構造耐力上の影響について「所見」欄に記載してください。
既存エキスパンションジョイント		<input type="checkbox"/> 有 → □図面と整合している → □図面と不整合(所見:) → □その他(所見:) <input checked="" type="checkbox"/> 無
柱梁接合部	ダイアフラム	形状・寸法 H12年建設省告示第1464号二号イの適、不適等を記入 <input type="checkbox"/> 適 <input checked="" type="checkbox"/> 不適 (所見:平成12年5月31日以前の着工)
		板厚 <input checked="" type="checkbox"/> 梁フランジ厚より大きい □梁フランジ厚と同厚 □梁フランジ厚より小さい
	溶接継目	種類 <input checked="" type="checkbox"/> 梁端フランジ接合部 (突合せ 溶接) □支障あり <input checked="" type="checkbox"/> 支障なし <input checked="" type="checkbox"/> 梁端ウェブ接合部 (すみ肉 溶接) □支障あり <input checked="" type="checkbox"/> 支障なし <input checked="" type="checkbox"/> 軸組筋かい接合部 (すみ肉 溶接) □支障あり <input checked="" type="checkbox"/> 支障なし
		スクラップの有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 → (精度: <input checked="" type="checkbox"/> 良好 □ややノッチあり □鋭いノッチあり) □無
その他の仕口・継手部	ボルト接合部	<input type="checkbox"/> 支障有 (所見:) <input checked="" type="checkbox"/> 支障無
	溶接部	<input type="checkbox"/> 支障有 (所見:) <input checked="" type="checkbox"/> 支障無
鉄骨の腐食状況		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
筋かい材の座屈、垂れ下がり		<input type="checkbox"/> 有 (所見:) <input checked="" type="checkbox"/> 無
部材断面・寸法等の計測		<input type="checkbox"/> 主要な構造部材毎に全て図面と整合している <input checked="" type="checkbox"/> 不整合箇所あり(「設計図書と現況の相違箇所」欄に不整合箇所を記載)
基礎	構造耐力上支障のあるひび割れ・剥離	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	鉄筋の腐食状況	<input type="checkbox"/> 有 → □鉄筋の露出 □錆汁発生 □その他() <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 無筋 □コンクリート基礎ではない()
設計図書等と現況の相違箇所及び所見		<input checked="" type="checkbox"/> 有 (相違箇所と所見) 大梁のサイズが設計図書と異なる箇所があったが、復元構造計算を行い、既存建築物が建築当時の構造規定へ適合していることを確認した。 <input type="checkbox"/> 無 調査報告書1の調査について、設計図書との相違箇所がある場合は、相違箇所を考慮した構造規定への適合について、所見を記載してください。
構造耐力上支障のある部分への対応		支障のある部分:基礎の剥離 (対応方法:ポリマーセメントモルタルで補修を行う) 構造耐力上支障のある部分が存在する場合は、その部分と、対応方法を記載してください。
その他特記事項		・四本柱や搭状建築物 ・不整形な平面形状など

※必要に応じて調査に伴う写真等を添付すること

記入例

調査報告書 2 (S)

■鉄骨造の建築物

1 鋼材の調査 (写真及び試験成績書等を添付すること)

現地調査を行った項目に●をつけてください。

調査項目	備考
● 鋼材等の材質試験	・柱、梁、ブレース
● 溶接部の検査	・資格所有者が検査を行うこと ・検査率50%以上(欠陥がある場合は追加調査を行うこと)※ 外観検査: 突合せ溶接部、隅肉溶接部 UT検査: 完全溶込み溶接部

※確認済証があり、図面と不整合箇所がない場合は、検査率30%以上とすることも可

2 柱脚部の調査(写真及び試験成績書等を添付すること)

調査項目	備考
● 柱脚部 (原則柱脚の形状ごとに1か所以上)	柱脚形式 (<input checked="" type="checkbox"/> 露出形式 <input type="checkbox"/> 根巻き形式 <input type="checkbox"/> 埋込み形式) <input checked="" type="checkbox"/> 図面と整合している <input type="checkbox"/> 不整合箇所あり(「設計図書と現況の相違箇所」欄に不整合箇所を記載)

3 コンクリートの強度調査等 (写真及び試験成績書等を添付すること)

調査項目	備考
● コンクリートコアによる圧縮強度試験	・原則、各施工時期ごとに3箇所以上
● コンクリートの中性化深さ試験	
塩化物量の検査	
シュミットハンマーによる強度試験	・圧縮強度試験の補完、試験を行えない箇所に対する代替

※調査した強度にばらつきがある場合は、調査箇所を追加

4 鉄筋の調査 (写真及び試験成績書等を添付すること)

調査項目	備考
● 鉄筋の径、本数、かぶり等の確認	・原則、各施工時期ごとにそれぞれ3箇所以上※ ・使用鉄筋が想定される場合は、各施工時期ごとにそれぞれ3箇所以上非破壊調査を用いてもよい。※
鉄筋の圧接部分の超音波探傷試験	・資格所有者が検査すること ・補修、解体時に圧接部が現れるなど、調査可能な場所のみ
鉄筋の引張強度試験	特殊な形状の鉄筋を使用している等、鉄筋の強度が不明な場合

※確認済証があり、図面と不整合箇所がない場合は、1箇所以上とすることも可

5 地盤・基礎の調査 (根拠資料を添付すること)

該当する部分にチェック、記載をしてください。

支持地盤	<input type="checkbox"/> 表土 <input checked="" type="checkbox"/> ローム <input type="checkbox"/> 砂礫 <input type="checkbox"/> その他()	GL- 0.5 m	<input checked="" type="checkbox"/> 確定 <input type="checkbox"/> 推定
直接基礎	<input checked="" type="checkbox"/> ベタ基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/> 独立基礎	地耐力 50 kN/m ²	<input checked="" type="checkbox"/> 確定 <input type="checkbox"/> 推定
杭基礎	<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭 <input type="checkbox"/> 鋼管杭 <input type="checkbox"/> 大臣認定杭 <input type="checkbox"/> 既成杭(材料) <input type="checkbox"/> その他()		<input type="checkbox"/> 確定 <input type="checkbox"/> 推定
備考			

現地調査を行った場合は「確定」、建築当時の設計図書等から推測した場合は「推

6 設計図書等と現況の相違箇所及び所見

<input type="checkbox"/> 有(相違箇所と所見)	
<input checked="" type="checkbox"/> 無	調査報告書2の調査について、設計図書との相違箇所がある場合は、相違箇所を考慮した構造規定への適合について、所見を記載してください。

7 その他特記事項等

--

記入例(S造)

現行法令チェック項目			適否判定(※1)	既存不適格(※2)	備考(※3)
構造部材等	構造部材の耐久	令第37条	○		
	基礎	令第38条	○		
	屋根ふき材等	令第39条	○		
木造	木材	令第41条	-		
	土台及び基礎	令第42条	-		該当しない規定は「-」を入れてください。
	柱の小径	令第43条	-		
	はり等の横架材	令第44条	-		
	筋かい	令第45条	-		
	構造耐力上必要な軸組等	令第46条	-		
	継手又は仕口	令第47条	-		
	防腐措置等	令第49条	-		
鉄骨造	材料	令第64条	○		
	圧縮材の有効細長比	令第65条	○		
	柱の脚部	令第66条	○		
	接合	令第67条	×	○	平成12年6月1日 告示1464号
	高力ボルト、ボルト及びリベット	令第68条	○		
	斜材、壁等の配置	令第69条	○		現行法に適合せず、既存不適格となっている規定について、備考欄に既存不適格になった時期、理由を記載してください。
	柱の耐火被覆	令第70条	○		
鉄筋コンクリート造	適用の範囲	令第71条	○		
	コンクリートの材料	令第72条	○		
	鉄筋の継手及び定着	令第73条	○		
	コンクリート強度	令第74条	○		
	コンクリートの養生	令第75条	○		
	型わく及び支柱の除去	令第76条	○		
	柱の構造	令第77条	-		
	床版の構造	令第77条の2	-		
	はりの構造	令第78条	-		
	耐力壁	令第78条の2	-		
	鉄筋のかぶり厚さ	令第79条	○		
SRC造	鉄骨のかぶり厚さ	令第79条の3	-		
	鉄骨造の規定	令第3章第5節	-		
	鉄筋コンクリート造の規定	令第3章第6節	-		
その他	構造計算規定	令第3章第8節	×	○	昭和56年6月1日 保有水平耐力計算
	建築設備の構造強度	令第129条の2の3	○		

※1:適否判定欄は、現行法に適合するかのチェックを行います。
「○」:現行法に適合 「×」:現行法に不適合 「-」:規定がかからない場合

※2:既存不適格欄は、適否判定欄が「×」の場合、当該規定が着工当時の規定に適合しているかのチェックを行います。
「○」:着工当時の規定に適合 「×」:着工当時の規定に不適合

※3:備考欄は、既存不適格欄で「○」となった場合、既存不適格となった年代、理由等をご記入ください。